

Tsuda Today

no.

67

index

- p. ① 2008年度入学式式辞
- p. ② 2007年度進路状況報告
- p. ③ 創立110周年記念事業ニュース
学習環境 リニューアル報告
- p. ④ 2008 (平成20) 年度事業計画
- p. ⑥ BILLBOARD

- 受賞おめでとうございます／新任専任教員職員紹介 他
- p. ⑤ 津田梅子記念交流館プログラム
ウェルネス・センター公開講座
「総合2008」あらはす一表・現・顕一
メディアスタディーズ・コース連続講演会
英文学科主催講演会

発行日 2008年6月2日
発行 津田塾大学
編集 企画広報課
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1
☎ 042-342-5113 ☎ 042-342-5121
http://www.tsuda.ac.jp

2008年度入学式式辞 (要旨) 津田塾大学学長 飯野 正子

津田塾大学の「教育力」

ご入学おめでとうございます。本日、このキャンパスに、学部749人、大学院14人の新入生の皆さんをお迎えすることができ、教職員、在学生とも大変うれしく誇らしく思っております。この日まで皆さんを暖かく見守り励ましてこられたご家族、関係者のかたがたにも心からお祝い申し上げます。

皆さんは、ここで始まる大学生活に対する大きな期待とともに緊張感や不安を抱いておられることでしょう。でも、自信を持って、新たな目標に向かって歩み—輝かしい先輩の列に続く歩み—を始めてください。

皆さんのその歩みを支える津田塾大学の「教育力」についてお話いたします。最近、大学の「教育力」が問われているといわれます。大学への進学率が高校卒業者の50パーセントを超え、科学技術が爆発的に進展・拡大しグローバル化が進んだいま、個人が持つ知識や技能が日本の社会全体の将来を左右すると考えられます。そうした新しい知識の進展に寄与する新しい世代—未来を切り拓く上で中心的な役割を果たす若者—を大学は育てなければならないのであり、まさに大学の「教育力」が問われているのです。

大学の「教育力」とは「大学教育が学生に与えるインパクト」であり、具体的には大学の理念、教育組織、そして個々の授業から成り立っています。津田塾大学の「教育力」を示す理念をスローガン風に申しますと「21世紀の複雑で多様なニーズに対応すべく、グローバルに、そしてローカルに、勇氣、情熱、志をもって世界を拓き、社会に貢献する女性の育成」です。「グローバルに」という言葉は「国際社会で」という表現で言い換えることができます。ローカルに」は「地域社会で」、つまり「身近な社会で」という意味です。そしてその教育の柱は4つあります。

- (1) リベラルアーツに裏打ちされた、オールラウンドな人間力
- (2) 世界に向けての知の発信力
- (3) 国際的に活躍・行動するための英語力とコミュニケーション能力
- (4) 生涯を通して学び続ける姿勢

本学の創立者、津田梅子先生が抱えておられた夢は、女性が教育を受けて自立することでした。女性が教育を受けることが難しかった時代に、津田先生は、女性の地位を向上させるには教育が必要だと考え、英語教員の資格を得るための訓練を、1900年開校の「女子英学塾」(本学の前身)の目標として掲げました。つまり、高度専門職業人、プロフェッショナルの育成は、本学の建学の精神です。本学で学ぶ間に皆さんには「英語の津田」といわれる本学が誇る英語教育を通して実力をつけていただきたい。また、英文学、英語学や、国際関係学、数学、情報科学などの分野でのプロフェッショナルになる知識を自分のものにしてください。

しかし、本学のめざすところはそこにとどまらないということも、皆さんには知っていただきたい。言語を習得することで思想や文化も学び視野を広げる、また、さまざまな学問を通してものの見方や考え方を学ぶ、これこそ本学のめざすリベラルアーツ教育の真髄です。津田先生の「女子英学塾」開校式式辞にも、この点が強調されています。「英語を専攻するにあたり、この専門分野で完全になることに努める一方、完き女性 (all-round women)

を作るのに必要な他のことがらをないがしろにしてはなりません。世間一般のことがらを知り、他の分野のことに接するよう、努めていただきたい」と。多様な価値観のぶつかり合う、そして急速に変化する、そんな状況においても活躍できる、強靱な精神力、たしかな判断力、しなやかな適応力、大胆に発想の転換ができる力、これこそが本学の「教育力」によって培われる「all-round womenの力」です。

大学の「教育力」のもうひとつの要素は、大学側の働きかけに対して皆さんの側にどのような心構えがあり、大学教育に何を求めるのか、ということです。本学が期待するのは、皆さんが、与えられる知識を吸収するといった受け身の姿勢で勉強するのではなく、「自分で考える」「自分から進んでやってみる」「積極的に参加する」ことです。自主性をもって学ぶ姿勢で、皆さんの側から本学の「教育力」をさらに高めてください。

この目標達成に向かうひとつの有効な手段は、教員と学生との双方向的なコミュニケーションをはかることです。つまり少人数教育であり、本学が大学名に「塾」の文字を残している理由もそこにあります。本学は少人数教育を通して、自主性をもつこと、視野を広げること、発信力・コミュニケーション能力を育んできました。そこから生まれる本学の魅力を十分味わい、自意識欲を持って、教員に、職員に、働きかけ、多くを吸収してください。

卒業生の多彩さも本学の重要な特色であり、本学の「教育力」を示しています。津田塾大学関連の書物において魅力的に語られている卒業生の輝かしい歩みの記録は、皆さんにとってのよい指針となるでしょう。本年4月に開設された千駄ヶ谷キャンパスでの多様な活動のなかには、皆さんにとってのロールモデルである先輩の卒業生と接する場もできます。そういう場に積極的に参加して、ご自分の将来像を描いてはいかがでしょうか。

本学での生活が、有意義で実りの多いものであり、これからの長い人生の歩みの中でご自分にとってかけがいのない意味を持つものとして思い出していただける、そんな経験になりますよう、お祈りし、挨拶いたします。

■2008年度 入学者数
学部

	1年次	2年次 (編入学)	3年次 (編入学)
英文学科	333	1	5
国際関係学科	283	5	—
数学科	67	—	1
情報科学科	54	—	—

	修士課程	後期博士課程
文学研究科	9	—
理学研究科	5	—
国際関係学研究科	—	—



2007年度進路状況報告

2008年3月卒業生637人の進路内訳は、就職535人（全体の84%）、進学45人（同7.1%）、公務員試験・教員採用試験準備等57人（同8.9%）でした。「団塊の世代」の大量退職に伴う企業側の積極的な採用活動により、企業への就職決定者の割合が増える一方、教員・公務員と進学は減少傾向となりました。

■就職

2008年3月卒の求職者に対する就職決定者の割合は、99.4%でした。2008年3月卒の求人倍率は、バブル期を超える2.14倍となり、メガバンクを中心とした金融や製造業、流通業などにおいて新規卒者の大量採用が行われました。就職者の業種別の割合（グラフ参照）及び主な就職先（表参照）にもあるとおり、本学の卒業生の就職先にもその傾向が見られます。

【主な就職先企業名】（単位：人／人数の多い企業順に抜粋）

企業名	英	国	情	合計
東京海上日動火災保険（株）	8	3	0	11
（株）三井住友銀行	4	6	0	10
（株）みずほフィナンシャルグループ	1	3	4	8
日本生命保険相互会社	2	6	0	8
（株）三菱東京UFJ銀行	4	2	1	7
野村證券（株）	1	4	2	7
（株）日立製作所	0	2	3	5
三菱UFJ信託銀行（株）	3	2	0	5
NEC（日本電気（株））	2	2	1	5

（英：英文学科 国：国際関係学科 情：情報数理科学科）

■教員

今年度の教員決定者は、公立教員が7人、私立教員が4人でした。公立教員採用試験は、首都圏で大型採用が続いており、年々競争倍率が大幅に低下しています。また、首都圏では1次試験合格者を増やし、2次試験（面接）で合格者を絞るといった人物重視の傾向にあります。このような状況を考慮して、面接対策講座を行いました。受講者11名（うち1次試験合格者は7名）のうち6名が2次試験に合格しました。また、教員内定者向けに行った「教員になるための心構え」には、今年度から近隣の公立学校の校長先生を招き、教員試験合格者に加え非常勤教員決定者、教員採用試験準備の学生15名が参加しました。

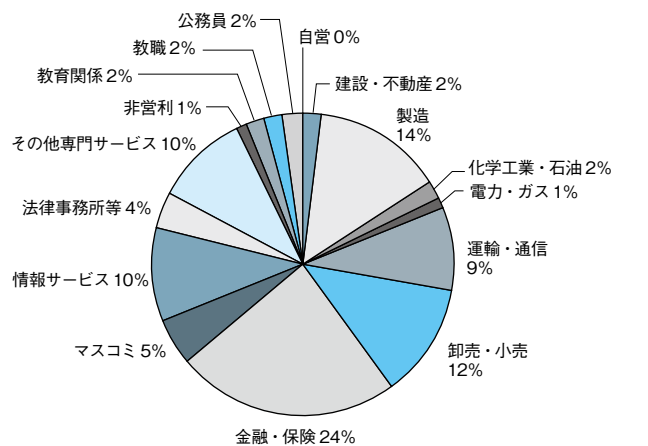
■公務員

国家公務員、地方公務員ともに採用人数を増加させ、各地で積極的な採用活動が行われました。しかし、景気動向及び企業側の積極的な採用活動により、今年度の公務員決定者は、国家公務員2名（前年度6人）、地方公務員9人（前年度7人）となり、昨年度より若干減少しました。なお、学内では、年間を通じて公務員試験対策講座を開講しています。この講座では、1次試験対策だけでなく、合格者には2次試験対策を講じています。

■進学

進学者のうち、国内の大学進学者は5人、大学院進学者は32人（本学大学院進学者は、文学研究科7人、理学研究科4人）でした。海外の大学・大学院への留学希望者は7人で、研究生等は1人でした。

【業種別内定先の割合】



（小数点以下は四捨五入）

就職活動を振り返って 英文学科2008年3月卒業 松浦 真実

津田Spiritの種を育んで

授業も、サークルも、アルバイトも、インターンシップも。“なんでもまずやってみる”好奇心旺盛な私らしく、津田塾での4年間は休むことなく動き続けた学生生活でした。それも今から思えば、アクティブで明るく勤勉な友人、先輩、後輩、そして教職員の方々に刺激されて突き動かされてきた、と言っても過言ではないのかもしれない。

就職活動を振り返ってもやはり動き回っていたなと思います。大学主催のガイダンスやグループワーク講座に参加したり、OG訪問や企業説明会に足を運んだり、とにかく何にでも顔をだして情報を集めました。中でもグループワーク講座では、模擬グループワークはもちろん、自己紹介の仕方など、就職活動に必要な基本を体得することができ、実際に面接を受け始めた時、他の学生より一歩リードしているという実感につながりました。

結果、ありがたいことに5社から内定を頂いたのですが、会社のネームバリューや勤務地、周りの声など目の前の情報にとらわれてしまい、自分が本当にやりたいこと、やりたいと思ってきたことを見失いそうになりました。そんなとき、決定打となったのがメディアに関する授業を担当されている坂上先生の講義との出会いでした。

坂上先生の授業は、ただ講義を聴くだけではなく、実際に自分たちで字幕制作を体験したり、ドキュメンタリーを見てグループワークをしたり、頭と体をフル回転させて自ら参加していると感じられるエキサイティングな授業でした。これこそ津田の授業だな、と4年生ながらふりつように受講しました。授業を通して映像を身近に感じると共に、その影響力や難しさなどを肌で感じ、自分もメディアに携わる仕事がしたいと改めて実感することができました。なにより強烈だったのが、坂

上先生のアクティブで溢れんばかりの熱い情熱は、授業や学生だけでなく、制作や、子育てにも向けられているということ。オールラウンドかつパワフルなロールモデルを目の前に、「私もあんな風になりたい!」という憧れと、メディアで働くことを志していた初心を取り戻し、ケーブルテレビのJ・COMで働くことを決めました。

その後先生の薦めで参加した大学の企画「ドキュメンタリーワークショップ」では、海外からの講師Amie Williams先生にカメラの操作や編集のコツなどを習い、グループで1本のドキュメンタリーを作りました。カメラを持って渋谷の街に出かけて行って、通りすがりの「ギャル」に突撃インタビューをするなど、普段話を聞くことのできない人に話を聞くことができ、本当に刺激的なワークショップでした。作ることの喜びや苦勞、仲間とやり遂げる達成感。ここでの経験が、将来ドキュメンタリーの制作に携わりたいという目標を持つきっかけになりました。津田には本当に沢山のきっかけの種が溢れています。それを活かすも活かさないも全て自分次第だなと実感しました。

社会に出てまだ日が浅いですが、本当に津田で良かったと感じることがあります。それはどの分野でも通じることだと思いますが、社会人として必要不可欠な自発性が身に付いていたことです。自ら考え行動することの大切さは、津田で過ごした4年間のうちに授業や課外活動の中で自然に培われたと思います。オールラウンドな女性として社会に貢献できるよう、これからも津田Spiritを大切に頑張りたいです。



▲研修トレーナーの先輩と松浦さん（右）

創立110周年記念事業ニュース

110th
Anniversary
in 2010

津田塾大学オープンスクールが始まりました

本誌66号でご紹介いたしました千駄ヶ谷キャンパス事業の第一弾、「津田塾大学オープンスクール」が始動しました。地域に根ざしたキャンパスをめざし、4月10日に開催した開校の式典では桑原敏武 渋谷区長をはじめ、多くの方に祝辞をいただきました。津田塾大学は、千駄ヶ谷キャンパスを通し、これからも新たな旋風を巻き起こします。



◀ ▲ オープンスクール授業風景

津田塾大学オープンスクール長 山口 順子

津田塾大学オープンスクール開校にあたって

2008年4月、千駄ヶ谷キャンパスに小学生から社会人までを対象とする「津田塾大学オープンスクール」が開校しました。

オープンスクールの特長のひとつは、津田塾大学の伝統を生かして行き届いた指導を受けられる少人数制の講座と、優れた講師陣を準備するために学外の専門家も参加したアドバイザリーボードを設けたことです。アドバイザリーボードは講師一人ひとりを面接して選ぶほか、講座内容についても継続的に関与して優れたプログラムを提供していくための体制です。

教室となる津田ホール別館は3月末までに教室の改修が実施され、今まで以上に快適な学びの空間に生まれ変わりました。教室内の椅子や机は、明るい色調で統一し、また2階のオープンテラスには仲間との交流が楽しめるようにカフェテーブルも準備しました。さまざまな形でご支援くださった多くの皆様のご期待に応えられるように、活気のある学びの場を創っていきたくと関係者一同、誠意をつくして臨んでまいります。

英語コースプログラムディレクター 豊嶋 朗子

今こそ英語を自分の言葉に

日本人がなぜ英語を学ばなければならないのか、と疑問に思いながら学んできた人は多いと思います。私も英語学習者であり英語教師でありながら、その疑問にすっきり答えられず、もどかしい思いをしていた2005年、ロンドン大学教育学部 (Institute of Education, The University of London) のセミナーで、イギリスの言語学者、David Graddol氏の言葉に出会いました。“More languages, more English. More English, more languages.” 「より多くの言葉が存在すればするほど、より多くの英語が求められる。より多くの英語が求められればするほど、より多くの言葉が存在する」と、私は解釈しました。

世界はますます多様化が進み、各民族が、そして各個人が、それぞれのアイデンティティを主張するようになってきた現在、相互理解のための、つまりコミュニケーションのための道具として、英語は存在しているということです。これは、英語がいわゆるネイティブスピーカーを頂点とした「英語帝国主義」の中で生き

もう半世紀近くも前のことですが、私は中学校から高校時代まで、毎週末千駄ヶ谷にあった津田英語会に通うのを楽しみにしていた生徒の一人でした。多感な思春期の数年間、授業を通していろいろな卒業生の先生たちに会いました。皆さんの雰囲気はそれぞれ異なりましたが、ひとたび授業がはじまると、どのクラスを受けても当たりはずれがない、今にして思えばプロの指導者が揃っていて、その指導力に引き込まれました。その頃の私にはそれがとても不思議であり、魅力的なことでした。熱心な先生とたくさんの生徒で活気あふれていた学びの場が原風景としていまも残っています。授業が終わると私は、明治神宮の樹林の中を通り抜けて、小田急線の参宮橋駅まで歩き、時には北沢まで歩いて帰宅することがありました。いま地図を広げてみても、どこをどう歩いたのかは思い出すことはできませんが、先生たちの熱心な雰囲気は脳裏に蘇ります。

千駄ヶ谷の地に開設された津田塾大学オープンスクールが、小さいながらもそんな活気と魅力に満ちあふれた学びの場となることを願っています。



るために必要な言語ではなく、地球上に生きる私たちが、自分のアイデンティティを守るために自己の存在を訴え、他のアイデンティティを理解するために、平等に英語を「ただの」共通言語として使っているという状況なのです。よって、英語は日本人の言語でもあるのです。しかし、日本では、英語はいまだ特別な存在で、言語というより学校教科の1つとしてしか見られず、世界の現状とは異なっています。

このたび開校する津田塾大学オープンスクールでは、英語を学び使うことによって、自分のアイデンティティを表現し、他のアイデンティティを理解する「地球市民」の感覚を実体験していただきたいと思っています。教室の中ではありますが、少人数で4技能を並行して練習していきながら、英語のユーザーの感覚を身につけることができると思います。自分の中でより多くの英語が存在し、「自分の言葉」になることで、より多くの「世界」が見えてくると信じています。

時代に応える学習環境の提供をめざして

学習環境 リニューアル報告

最先端の語学教育設備を導入

1998年度から使用してきましたLL (Language Laboratory) 教室を2008年4月に、3教室141台のコンピュータからなるCALL (Computer Assisted Language Learning) 教室に刷新しました。インターネットや例えばiPodに代表されるように、デジタル技術によるメディアが急速に普及しています。これらメディアの活用はもとより、LL教室より培ってきた語学教育を最新のコンピュータ環境を介して行うことができます。また同時通訳ブースもCALLシステムと連携し、訓練が行える環境を整えました。より高度な教育の情報化に対応できる教室へ変貌しました。



「原書」に触れる、伝統の語学教育も拡充

英文学科と国際関係学科の1年生必修科目“Extensive Reading I”は、指定された原書の中から毎週好きな本を読み、作品の概略を100words以内、評価を200words程度でレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う津田塾伝統の授業です。2008年度から、その“Extensive Reading I”で使用する指定原書を2200冊と大幅に充実させ、さらに幅広い学生の興味に応えていきます。うち1000冊以上を図書館1階フロアの専用書架に配置し、学生が容易にアクセスできるよう配慮しました。



図書館5階に 新たな学習スペース

図書館書庫最上階を学生に開放しました。収蔵資料は芸術分野の図書と新聞バックナンバーですが、書架だけでなく、ブース型の個別机を含む閲覧席を48席用意しました。窓外の木立と空を望める落ち着いた静かな学習環境を提供しています。



2008(平成20) 年度事業計画

■ 基本方針

▶ 創立者、津田梅子の建学の精神および教育理念には明確な現代性があります。本学ではそれを時代に即した形に発展させ、「21世紀の複雑で多様なニーズに対応すべく、グローバルに、そしてローカルに、勇気・情熱・志をもって世界を拓き、社会に貢献する女性の育成」を教育目標として掲げています。これらを実現するために、①リベラルアーツ教育に裏打ちされたオールラウンドな人間力、②世界に向けての知の発信力、③国際的に活躍・行動するための英語力とコミュニケーション能力、④生涯を通して学び続ける姿勢、この4点を教育の柱としています。

▶ 教学に関する改革や付随する広報活動等について、常に多面的に検討を行い、計画を策定します。大学院の充実に向けて拡大大学院委員会を設置し、検討を進めています。

▶ 本学の更なる発展をめざし、創立110周年記念事業計画を推進します。同時に創立110周年に向け、募金活動を継続します。記念建築の新北校舎(仮称)については、本格的な設計に着手します。

▶ 財団法人津田塾会から寄贈を受けました千駄ヶ谷の地に、新キャンパスを開設しました。小平と千駄ヶ谷の2つのキャンパスそれぞれ単独で収支バランスがとれるよう配慮していきます。

また、千駄ヶ谷キャンパスの今後の活用について、「千駄ヶ谷キャンパス将来計画会議(仮称)」を設置し、2008年度中に基本方針等をまとめる予定です。

■ 事業の概要

2010年の創立110周年に向け、募金活動、記念建築計画の費用など2007年度に引き続き「創立110周年記念事業計画」に対して予算措置をとりました。施設整備計画については、前ページでご紹介した視聴覚センターCALL教室刷新事業をはじめ、広く保守改良を行っていきます。

2006年度から実施している教育重点配分予算計画を今年度も引き続き実施します。原資は、経常的経費を一律1%削減することにより捻出します。

■ 主な事業計画

[1] 教育重点配分予算

□授業科目7講座を設置します。

➡ 「翻訳通訳概論」、「国際協力論」、「国際教育開発論」、「南アジア研究」、「発音クリニック」を継続します。

➡ 「共通科目特別講義A・B」：激変する現代社会の諸問題に即応できる科目とします。今年度前期は『ジェンダー研究の現在』です。

➡ 「日本語ライティング講座」：問題解決能力およびコミュニケーション能力育成を目的とし、自らの意思、思想、論理、感性を書き言葉で表現できるライティング・スキルを養成します。

□翻訳・通訳コース公開講演会を継続して実施します。

□「英語演習(情報科学科)Ⅰ・Ⅱ」(コーチングの考え方を応用した自習形式の演習授業)を継続して実施します。

□メディアスタディーズ・コース用メディア機器およびネット環境を充実させます。

□Tsuda English Coordination Center(以下、TECC)におけるファカルティ・ディベロップメント(以下、FD)を充実させます。

➡ 授業の補助教材としてテキスト・音声・映像資料、英語教授法や評価法を研究するための書籍の購入や英語教授法研究、授業展開研究のための科目担当者会議を開催します。また、講演会やTECCのWebページを通じて、英語教授法等を学内外に広報します。文法や英作文についてGrammar ClinicやWriting Centerの立ち上げをめざします。

□大学院生の海外調査／フィールドワークを支援します

➡ 学位(博士)の取得を促進するため、博士論文提出予定者が、海外活動するための支援を継続します。

[2] 個性ある教育活動

□TECC、「多文化・国際協力コース」、「メディアスタディーズ・コース」の教育活動を推進します。

□大学院教育を拡充します。

➡ 理学研究科2コマ開講増、文学研究科「現職教員研修プログラム」の新設、国際関係学研究科・文学研究科学内推薦入試を実施します。

[3] GP支援費

GP支援費は、新しく外部の研究資金を獲得するための支援を目的としています。プロジェクト型、チーム型の活動を支援し、外部資金の獲得をめざします。

□2004(平成16)年度に採択された特色ある大学教育支援プログラム(以下、特色GP)で開講された授業科目「初等英語教育概論」、「初等英語教育研究」、「英語の語彙習得研究」を継続します。

□特色GP、現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)、社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム等新規採択に向けた活動として、「SNSを用いたキャリア教育支援システムの設計および運用方法等の調査研究」、「ホビーロボットを利用したプログラミング研究」を実施します。

[4] 教育研究支援体制の充実と外部資金獲得の強化

□オープン・リサーチ・センターの活動を推進します。

□大学教育の国際化推進プログラム(海外先進研究実践支援)採択に向けた活動を継続します。

[5] 学生支援体制の強化

□フィールドワークや語学研修における危機管理体制を強化します。

□海外活動奨励金や課外活動奨励金などの奨学金支給を充実させます。

□就職対策講座を拡充します。(教職志望者に対する支援講座新設)

□インターンシップ制度を拡充します。

□寮生の生活安全対策を支援します。(新入生の立川防災館見学を実施)

□在学生保護者向けに学生生活支援のためのガイダンスを実施します。

[6] 教育方法・履修指導の充実

□ティーチング・アシスタント活用による学習相談・履修指導を継続します。

□成績評価基準の見直しを行ない、従前4段階で評価していたものを5段階で評価します。

□国際的に通用するGPA(Grade Point Average)を導入します。

□年間修得単位数の上限を設定します。

□2年次から3年次に進級する際の基準を導入します。

[7] 教員の教育内容・授業方法の改善

□学生による授業評価アンケートを活用します。

□FDを充実させます。(教授法研修会等の実施)

[8] 学生募集活動及び一般広報活動の充実

オープンキャンパスの開催、日本全国での進学相談会の実施、高校への出張授業の提供、「高校生エッセー・コンテスト」の実施を継続します。

[9] 地域、高校、大学間ネットワークの拡充

「高大連携」、「多摩アカデミックコンソーシアム(TAC)」、「EUインスティテュート in Japan(EUIJ)」、「5女子大学コンソーシアム委員会」、「日加戦略的留学交流促進プログラム日本コンソーシアム」の活動を推進します。

[10] 施設整備の推進

CALLシステムによる語学教育設備機器の更新、本館教室の床改修、非常用発電機を更新します。

[11] 創立110周年記念事業計画の推進

記念事業募金の継続、新北校舎(仮称)の設計着手、デジタルアーカイブ化計画として本学関連の歴史的資料をWeb上で公開します。

[12] 千駄ヶ谷キャンパスにおける大学の教育・研究の推進

□学部および大学院の授業を可能な限り実施し、研究所・センターの設置、学会活動の推進、その他の教育関係プロジェクトの実施を逐次実現します。

□社会人対象の大学院新研究科について、2010年度の開設をめざして検討を進めます。

□津田塾大学津田ホールを大学の講堂として大学の教育・研究の推進に活用していきます。

[13] 千駄ヶ谷キャンパスにおけるオープンスクールの開校

□大学が監修する英語講座・生涯学習講座(対象:児童・生徒・一般成人)

として、新規にオープンスクールを開校します。

□津田塾大学および津田塾会としての永年にわたる研究・実践の成果を活かし、小・中学生、高校生から一般成人までを対象に「英語講座」および「小学校英語講師養成コース」を開講します。

□外務省や国連機関の後援・協力を得て、学生および社会人を対象に「国際公務員・国際協力事業従事志望者のための訓練コース」を実施します。

□「国際教養講座」、「英語力・国際力・IT力向上のための学び直しプログラム」等を開講します。

【14】千駄ヶ谷キャンパスにおける地域貢献事業の推進

津田塾大学津田ホール等を活用した芸術・文化・国際交流等の公開教育講座やイベントを開催します。

【15】「千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社」の活用

津田ホール運用、オープンスクール事務等の作業効率を高めるため、2008年1月31日に設立した本法人100%出資の子会社「千駄ヶ谷キャンパスサービス株式会社」を活用します。

□ 予算の概要

【消費収支予算書について】(表I)

消費収支予算書は、当該年度の総収入である帰属収入から、企業でいう自己資本に相当する基本金を控除した消費収入から人件費や教育研究経費などの消費支出を差し引いて消費収支の差異を表しています。企業会計の損益計算書に近いものですが、基本金組入れの概念は学校法人特有のものです。消費収支の10年間の推移のグラフはWebページに記載しています。

【1】収入の部

□学生生徒等納付金…スライド率1.5%を反映し、増額となっています。

□手数料…入学検定料収入は、2007年度入試と同額としています。

□寄付金…千駄ヶ谷キャンパス分を計上。事業としての募金活動分は、従来、全在学生対象に行なっていた募集を春に1回、創立110周年記念募金は秋に行なうこととし、前年度予算より減額となることを想定しています。

□補助金…文部科学省の制度改正に伴って減額となることを想定しています。

□資産運用収入…千駄ヶ谷キャンパスにおける津田ホールの施設貸出収入が増額となっています。

□雑収入…2008年度の退職者が前年度より増加するため退職金財団交付金収入が増額します。

【2】基本金組入額

基本金組入額189億7千8百万円は、財団法人津田塾会から受贈しました土地及び建物附属設備等の取得である第1号基本金、将来の建物取得のための積立を行う第2号基本金と奨学金の積立を行う第3号基本金です。第2号基本金への組み入れは5億2千5百万円で、その内訳は新館建替資金の1億円、北校舎建替資金の5千万円、図書館建替資金の1億2千5百万円、寮建替資金の5千万円、南校舎建替資金の1億5千万円、北校舎跡地整備資金の5千万円です。なお、創立110周年記念事業建築の設計費用として1千万円を建設仮勘定として計上しています。

【3】支出の部

□人件費…大幅な変化の要因がなく、微増となっています。

□教育研究経費…千駄ヶ谷キャンパスにおける事業委託費を計上しました。

□管理経費…寮の居室改修、外壁塗装工事を予定しています。

【4】消費収支差異

5千5百万円の支出超過予算となりましたが、翌年度への繰越支出超過額は1億6千7百万円となります。

【資金収支予算書について】(表II)

学校法人におけるすべての資金の収支内容を表しています。企業会計のキャッシュ・フロー計算書に近いものです。

【1】収入の部

その他の収入…退職給与引当特定資産からの繰入収入が、2009年3月退職予定を反映し、増額となっています。

【2】支出の部

□借入金返済支出…借入金は、AVセンター棟と図書館書庫を建設した際に日本私立学校振興・共済事業団から借り入れたものです。

□設備関係支出…図書館の学生用和書の充実やデータベース資料充実などを継続して推進しています。また、教育研究設備等の推進を継続して計画しています。

□資産運用支出…有価証券購入支出は、資金運用のため短期で元本確実な有価証券を購入するものです。

以上により、次年度繰越支払資金は9億6千4百万円となっています。

(文中の金額は、すべて百万円未満四捨五入)

【表 I：消費収支予算書】

収入の部 (単位：百万円)

科 目	2008年度	2007年度	増 減
学生生徒等納付金	2,827	2,781	46
手数料	150	144	6
寄付金	18,659	83	18,576
補助金	318	330	△ 12
資産運用収入	266	41	225
事業収入	115	63	52
雑収入	84	9	75
帰属収入合計	22,419	3,450	18,969
基本金組入額合計	△ 19,097	△ 542	△ 18,555
消費収入の部合計	3,322	2,908	414

消費支出の部 (単位：百万円)

科 目	2008年度	2007年度	増 減
人件費	1,974	1,964	10
教育研究経費	1,156	892	264
管理経費	212	215	△ 3
借入金等利息	2	3	△ 1
資産処分差額	0	0	0
〔予備費〕	33	30	3
消費支出の部合計	3,377	3,104	273
当年度消費支出超過額	55	196	
前年度繰越消費収入超過額	222	418	
翌年度繰越消費収入超過額	167	222	

【表II：資金収支予算書】

収入の部 (単位：百万円)

科 目	2008年度	2007年度	増 減
学生生徒等納付金収入	2,827	2,781	46
手数料収入	150	144	6
寄付金収入	66	80	△ 14
補助金収入	318	330	△ 12
資産運用収入	266	41	225
資産売却収入	300	300	0
事業収入	115	63	52
雑収入	84	9	75
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	613	616	△ 3
その他の収入	323	724	△ 401
資金収入調整勘定	△ 693	△ 651	△ 42
前年度繰越支払資金	1,044	1,066	△ 22
収入の部合計	5,413	5,503	△ 90

支出の部 (単位：百万円)

科 目	2008年度	2007年度	増 減
人件費支出	2,055	1,935	120
教育研究経費支出	903	678	225
管理経費支出	178	180	△ 2
借入金等利息支出	2	3	△ 1
借入金等返済支出	30	30	0
施設関係支出	94	210	△ 116
設備関係支出	150	143	7
資産運用支出	953	1,065	△ 112
その他の支出	287	291	△ 4
〔予備費〕	33	30	3
資金支出調整勘定	△ 236	△ 133	△ 103
次年度繰越支払資金	964	1,071	△ 107
支出の部合計	5,413	5,503	△ 90

受賞おめでとうございます

5月25日(日)、津田塾大学同窓会賞授賞式が開催されました。津田塾大学同窓会では、成績・人物ともに優れ、奉仕の精神に富む4年生に対して「津田梅子記念同窓会賞」を授与しています。

授賞者(敬称略、学科別・順不同)

[英文学科]	日野 美幸	岡田 香穂里
[国際関係学科]	鈴木 絢香	山下 恵
[情報数理科学科]	中村 典子	

各国大使による講演会を開催中

5月9日(金)、駐日カナダ大使のジョセフ・キャロン氏をお招きして講演をいただきました。昨年のヨルマ・ユリーネ駐日フィンランド大使の講演を皮切りに、今回はその第2弾です。本講演は、本学の授業科目として開講している地域研究科目に関連の深い国の大使にご講演いただき、学生たちの学びを支援することを目的としています。次回は10月以降に予定しています。皆さん、奮ってご参加ください。

▶講演するキャロン駐日カナダ大使



新入生向けサークル紹介イベントを開催

津田塾大学学生会では、2008年度から「新入生オリエンテーション」の一環として、新入生によりサークルを理解してもらいその活性化をはかることを目的に、サークル紹介の日を設けました。当日は、特別教室のステージで持ち時間5分という短い時間でしたが、計53のサークルが参加。演技や演奏を披露したり、スクリーンを使っでの活動報告をしたりと、新入生にそれぞれの魅力をアピール。参加した約350名の新入生からは、大変参考になったと好評でした。



▲Dance Nuts によるデモンストレーション

カフェ ルポでちょっと一息！

大学ホール1階のカフェが、装いを新たにオープン。カフェの名前は「ルポ」。「ルポ」では、安全な食材にこだわり、国産の牛肉・豚肉、地元の低農薬野菜の使用を心がけ、手作りの軽食やケーキ、フェアトレードのコーヒー等を提供しています。フランス語で休息・癒しを意味する「ルポ」(Repos)。提供する食事はもちろんですが、ゆったりとした空間や、春の新緑・さくら、秋の紅葉、冬の雪景色など店内から見える景色からも“Repos”を体感していただけたと思います。

「ちょっと一息!!」学生や教職員の皆さまに少しでもゆっくり休息してもらえ空間作りをモットーに、末永く愛される「ルポ」でありますよう、スタッフ一同、精進・努力してまいりますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



▲新たに看板も設置されました

協定大学からの交換受入留学生をご紹介します

2008年4月より、新たに6名の交換留学生在津田塾で机を共にしています。皆さん、よろしくお願いします。

李 スルギ 梨花女子大学(韓国)
朱 殷秀 梨花女子大学(韓国)
Faith Pilacik
プリンマー大学(米国)
Katherine Robinson
プリンマー大学(米国)
Amy Dundon
オーストラリア国立大学(豪州)
林 榮姍 淡江大学(台湾)



ハラスメント・アンケートにご協力ください

津田塾大学では、2008年度の在学生(学部生、大学院生)および教職員(専任・非常勤)全員を対象に、ハラスメントに関するアンケートを実施します。在学生には、2008年6月に自宅(現住所)にアンケートを郵送し、7月講義期間終了時まで学内の回収箱に提出をお願いする予定です(もしくは郵送)。回答は無記名です。アンケートに関する質問、問い合わせは総務課で受け付けています。ご協力をよろしくお願いします。

(ハラスメント対策委員会)

卒業礼拝「希望を誇りにして。」太田 愛人氏(愛の家ファミリーホーム理事長)

ローマの信徒への手紙 5章1～5節

伝道者パウロは多くの苦難を経てコリントに到着し、遺言ともいうべきローマ人への手紙を書きました。過去の伝道は同胞ユダヤ人や異邦人にイエスの言行を伝え、福音が狭いユダヤから地中海の国々に伝わることを念願し、海の彼方ローマやスペインに渡航することを希望し、一女性に手紙を托しました。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むことを」(ローマ5章5節)の4文字は、パウロの生涯だけでなく、福音の進展をも暗示しています。練達とは吟味とも訳され、火で鉱石が熱せられて金属と滓を区別することです。苦難のゆくてに希望が約束され、ローマに着きます。

詩人高村光太郎は、この言葉を受、戦後、岩手県の山中に隠棲した頃、訪問者が差し出した色紙に「苦難、忍耐、練達、希望」を書き、自己の心の中を表明しました。人生の曲がり角でパウロの勧めは希望を与えてくれます。

津田塾の生みの親の一人新渡戸稲造は日露戦争後、一高の学生に社会の進展を4文字で表わし、国の行方を示しました。Vitality, Mentality, Morality, Sociality の順を。新渡戸のクリスチャン・ネームはパウロで、彼はパウロの如く海の彼方で客死しますが、12年後、日本は平和社会に到達しました。ちなみに新渡戸の『BUSHIDO』を口述筆記して世に残したのが、津田塾にも縁の深いアナ・ハーツホンでした。

新任専任教員／職員紹介



くらばやし なおこ
倉林 直子

英文学科
助教
主な担当科目:
Composition I

第2次大戦後の日米関係、特にアメリカ政府の対日政策決定に大統領や省庁、議会や世論がどのような影響を与えてきたのかに関心があります。長い学生時代を過ごし、なじみのある津田ですが、新たな気持ちで頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



やはぎ ゆみ
矢作 由美

数学科
助教
主な担当科目: 位相入門演習

専門は代数幾何学で特に代数曲面とそれに伴うChern numbersの研究をしています。私自身が津田塾で楽しい大学生活を送ることができたことを思い出しながら、学生みなさんと一緒に楽しく学んでいきたいと思っています。



あみなか あきよ
網中 昭世

国際関係学科
助教
主な担当科目:
原書講読 (2年セミナー)

主に南部アフリカ地域の経済構造に反映される国際関係を、モザンビークと南アフリカ間の移民労働に着目し、歴史的に研究しています。時空横断的に様々な関心を持つ教員・学生の皆さんと共に学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



まき ももか
眞城 百華

国際関係学科
助教
主な担当科目:
原書講読 (2年セミナー)

専門は、国際関係学、アフリカ研究です。主研究テーマはエチオピアの国家と民族の関係です。授業は2年セミナーを担当しますが、学生相談などを通じて多くの学生の皆さんと交流を深めたいと思っています。よろしくお願いいたします。



すずき ひろかず
鈴木 宏和

学生生活課

前職では、飲料・調味料・乳業等のメーカーに対して、産業用設備の提案と立ち上げを担当しておりました。この度、伝統ある津田塾の一員として仕事ができることを嬉しく思っております。未経験のフィールドですので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

ご支援・ご協力に感謝申し上げます

(2008年5月13日現在)

奨学金として	河嶌 哲也様	1,000円
語学教育のため	匿名	5,000,000円
教育研究施設設備充実のため	清水 幸子様	500,000円

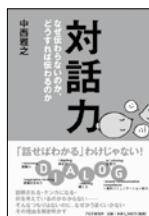
新刊紹介

『対話力 なぜ伝わらないのか、どうすれば伝わるのか』

英文学科教授 中西 雅之 著
PHP研究所 1,365円

「話せばわかる」とは言うけれど、いくら話しても自分の気持ちや考えが伝わらないことが多い。なぜわかってくれないのか?それは「対話」になっていないから。互いの人格を認めあい、状況認識を共有してはじめて対話ができるのです。本書は、対話に必要な様々な要素を挙げて解説しています。これらをきちんと意識することで、周囲の人とのコミュニケーションが改善し、人間関係のイライラも解消していくでしょう。

◎対話に必要な6つの力(認識力・想像的思考力・適応力・傾聴力・注意力・一般的コミュニケーション能力=D・I・A・L・O・G)の自己診断テスト付。

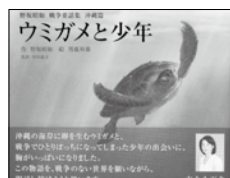


野坂昭如 戦争童話集 沖縄編

『ウミガメと少年』

作: 野坂 昭如氏
英訳: 英文学科教授 早川 敦子
徳間書店 1,700円+税

本書は、作家の野坂昭如氏が2001年に発表した戦争童話「ウミガメと少年」の日本語／英語対訳本です。その翻訳を、本学教授の早川敦子が担当しました。スタジオジブリ作品の美術監督を務める男鹿和雄氏による書き下ろしイラストがふんだんに散りばめられており、戦争という暗い現実と、沖縄の明るい自然の対比を視覚的にも表現。童話ではありますが、年齢や国籍を問わず、手にとってみる価値がある一冊です。本作品は、女優の吉永小百合氏がライフワークとする朗読「第二楽章」の広島編・長崎編に続く沖縄編の原作になったことでも話題を呼んでいます。



理事会・評議員会開催報告

第181回理事会 (2008年3月19日)

(報告事項)

- ・学事報告 (2008年度入試志願者状況、2007年度卒業者数)
- ・千駄ヶ谷キャンパス開設について

(審議事項)

- 1) 3月28日開催の評議員会に諮問することを審議する事項
 - ・2007 (平成19) 年度第2号基本金組入れ計画に関する件
 - ・2008 (平成20) 年度事業計画(案)、予算(案)、学費改正(案)に関する件
- 2) 本理事会での審議事項

(懇談事項)

- ・2007 (平成19) 年度人事院勧告に伴う本学教職員給与の取扱いについて

第182回理事会 (2008年3月28日)

(報告事項)

- ・千駄ヶ谷キャンパス開設について

(審議事項)

- ・2007 (平成19) 年度第2号基本金組入れ計画に関する件
- ・2008 (平成20) 年度事業計画(案)、予算(案)、学費改正(案)に関する件
- ・津田塾大学学部および大学院学則の一部改正に関する件
- ・2007 (平成19) 年度人事院勧告に伴う本学教職員給与の取扱いについて
- ・その他

第147回評議員会 (2008年3月28日)

(報告事項)

- ・学事報告 (2008年度入試志願者状況、2007年度卒業者数)
- ・千駄ヶ谷キャンパス開設について

(諮問事項)

- ・2007 (平成19) 年度第2号基本金組入れ計画に関する件
- ・2008 (平成20) 年度事業計画(案)、予算(案)、学費改正(案)に関する件
- ・その他



津田梅子記念交流館プログラム

申込
必要

有料

津田梅子記念交流館事務局 ☎042-342-5146まで

〈会場：小平キャンパス〉

クリエイティブ・ペインティングI Painting is not Drawing

■講 師：ダニエル・モロー氏（画家・ゲーテ科学研究者）
 ■日 時：2008年6月8日（日）10：00～16：00
 ■参加費：4,000円、材料費：500円 ※通訳付

火の呼吸 ～クンダリーニ・ヨガ入門編

■講 師：加来 禎治氏（クンダリーニ・ヨガ チーフインストラクター）
 ■日 時：2008年7月4日（金）16：00～18：00
 ■参加費：2,000円

夏休み子ども英語クラブ 津田塾生と作る英語劇『青い鳥』

■日 程：2008年7月28日（月）～8月3日（日）
 7月31日を除く6日間 10：30～14：30
 ■参加費：12,000円（予定）

中学生のための数学教室 広がる数の世界で計算に強くなろう

■日 程：2008年7月28日（月）～30日（水）10：00～12：00
 ■参加費：4,000円

英語教員のためのワークショップ

■日 程：2008年8月4日（月）～6日（水）10：30～16：30
 ■参加費：18,000円

数学教員のためのワークショップ

■日 程：2008年8月7日（木）～9日（土）10：30～16：30
 ■参加費：18,000円

語りのタベ “The Voice in Your Heart ～内なる声に耳をすます～”

■Storyteller：Wim Wolbrink氏
 ■日 時：2008年8月8日（金）17：00～19：00
 ■参加費：1,000円

Shakespeare's Fathers and Daughters

■講 師：Andrew Wolpert氏、田村 祐子氏
 ■日 程：2008年8月18日（月）～20日（水）8：45～17：30
 ■参加費：25,000円

ウェルネス・センター公開講座

申込
必要

無料

ウェルネス・センター ☎042-342-5147まで

ヘルスケアおよびウェルネスに関する情報発信機関「ウェルネス・センター」。今年度は広く『食』について考察します。

『スポーツと食～トップアスリートの食への取り組み～』

〈小平キャンパス〉

■講師：田口 素子氏（日本女子体育大学 准教授） ■日時：2008年7月3日（木）14：40～16：10

『総合2008』あらはす―表・現・顕―

申込
不要

無料

教務課 ☎042-342-5130まで

〈会場：小平キャンパス〉

年度ごとに現代の切実な問題を取り上げて、学生と教員が協力して運営にあたる「総合」。今年度は、＜あらはす―表・現・顕―＞をテーマに、日ごろから様々なくひょうげんに関わっておられる講師の方々をお招きし、様々な話題に迫っていきます。

■日時：授業期間中の毎週木曜日 13：00～14：30

2008年度（前期）これからの講演者

■6月5日（木）鈴木 健（本学准教授）

■6月26日（木）アオキ 裕キ氏（ダンサー）

■12日（木）山田 慎也氏（国立歴史民族博物館准教授）

■7月 3日（木）（未定）

■19日（木）白石 学氏（武蔵野美術大学専任講師）

■10日（木）坂上香、小倉充夫、丹羽敏雄（「総合」担当専任教員）

メディアスタディーズ・コース連続講演会

申込
不要

無料

教務課 ☎042-342-5130まで

セールスプロモーションにおけるメディア活用術 ～広告と購買心理～

〈小平キャンパス〉

■講師：松川 浩二氏（株式会社 カレラ プロデューサー） ■日時：2008年6月4日（水）16：20～17：50 ■参加費無料・申込不要

<上映会&トーク> 映画『ライファーズ』が私たちに語りかけるもの

〈千駄ヶ谷キャンパス〉

■講師：坂上 香（本学准教授）＋撮影クルー＋製作・上映ボランティア ■日時：2008年6月14日（土）17：30～20：30

オルタナティブ・メディアの挑戦～ネット放送局と上映キャラバン～

〈小平キャンパス〉

■講師：白石 草氏（インターネット放送OurPlanetTV代表）・新井 ちひろ氏（「山形でゲリラ上映会をした！」監督）

■日時：2008年7月17日（木）14：40～17：50

英文学科主催講演会

申込
必要

無料

英文学科事務局 ☎042-342-5150まで

ドフトエフスキー 新訳から拓がった新たな風景（仮題）

〈小平キャンパス〉

■講師：亀山 郁夫氏（東京外国語大学学長） ■日時：2008年7月7日（月）10：30～12：00

<対談> 「いずれ重しと問はれなば」通訳者の言葉 vs. 翻訳者の言葉

〈小平キャンパス〉

副専攻翻訳コース・通訳コースの公開講演会に、昨年のすばらしい講演者のお二人が対談形式で登場です。（当日書籍販売あり）

■講師：鳥飼 玖美子氏（立教大学大学院教授）／アーサー・ビナード氏（詩人） ■日時：2008年7月18日（金）13：00～14：30